

日本の作業療法士および作業科学者が捉える高齢者に対するまちづくり： Age-Friendly Cities の概念を用いた文献研究

安齋哲也¹⁾ ボンジェ・ペイター²⁾

1) 首都大学東京 人間健康科学研究科作業療法科学域 博士前期課程

2) 首都大学東京 人間健康科学研究科作業療法科学域

要旨:【目的】日本の作業療法士および作業科学者が、高齢者にとってのまちや社会づくりをどのように捉えているかを、Age-Friendly Cities (AFC) の概念を用いて、その特徴を探索することである。【方法】日本における作業療法あるいは作業科学に関連する文献を対象に「作業の視点からみた日本の AFC」という概念を Rodgers の革新的概念分析の手法を用いて分析し、記述を行った。【結果】概念分析の結果、4つの特性、3つの先行因子、3つの帰結が特定された。特性は【社会的基盤の強化】【住民への介入】【周囲の環境の調整】【作業の視点からの介入】、先行因子は【社会的問題】【周囲の環境の問題】【作業の問題】、帰結は【高齢者が安心できる】【公平性が担保されている】【作業の保障】がカテゴリとして特定された。【結論】本研究によって得られた対象概念の分析結果は文献数の少なさや認知症者に関する文献に偏っていたことから暫定的なものである。今後 AFC に関連する文献数を確保した上で、さらなる概念分析が必要である。

作業科学研究, 12, 66-72, 2018.

キーワード：地域，まちづくり，高齢者にやさしい都市，概念分析

